

第6回 野菜ソムリエアワード 受賞者の紹介

2
野菜ソムリエコミュニティ部門

とを誓います」と、元氣な宣誓でプレゼンテーションを締めくくったコミュニティさいたま。2009年4月に発足し、埼玉県全域で活動を行う。野菜ソムリエコミュニティとしての存在意義を見据え、それぞれの会員の活動の活性化を図っている。

埼玉県は、東京などの都市圏への流通を担う地域でもあり、また県内においても都市部と農地が融合している。コミュニティさいたまは、そういった中で、地元を生産者を支援する取組みを行い、埼玉野菜を中心とした野菜や果物の魅力の発信を実施してきた。

「活動での交流を通じて、信頼や絆が生まれ、またお互いが刺激し合うことで会員それぞれの士気が高揚している。夢に向かってはばたく勇氣も与える社会的価値のある団体として、今後もコミュニティさいたまをしっかりと育てていきたい」と、代表の村田達雄さんと、副代表の渡辺美さんは話す。

「2020年は東京が主役！東京育ちの野菜を私たちがコミュニティTKO KYO会員300人の力で盛り上げていきます」と真つ白な東京ウドを手に、東京産野菜の魅力を来場者にもアピールした。

江戸東京野菜の「東京ウド」や「伝統大蔵ダイコン」の圃場見学、世田谷区でのリンゴ収穫体験、東京留米市産野菜を食べるレストランイベントなど、昨年は15回、東京の食材をめぐる学習会を開催。世田谷区農業祭や杉並区アグリフェスタなどで、

「野菜ソムリエコミュニティ」は、資格を生かした自主的な活動、情報交換、相互連携の拠点とするための、日本野菜ソムリエ協会公認の団体である。都道府県や地域ごとに有資格者が集まって組織運営され、現在53のコミュニティが活動している。入賞したコミュニティの活動内容を紹介する。

象徴的な活動は「さいたま市農業祭」への出店。昨年で7年連続となり、3日間の会期中、延べ42人の会員が参加した。オリジナルポトフの販売も行い、野菜ソムリエの料理とあつてブースは絶え間ない行列

ができて、600食を完売したという。深谷市農業祭にも出店し、農産物紹介のメインブースも任された。活動を支えるのは埼玉野菜の学習会。生産額全国一位品目の合言葉「NSKH」(N=ネギ、S=サトイモ、K=コマツナ、H=ホウレンソウ)とし、

「2020年は東京が主役！東京育ちの野菜を私たちがコミュニティTKO KYO会員300人の力で盛り上げていきます」と真つ白な東京ウドを手に、東京産野菜の魅力を来場者にもアピールした。

会員の起業サポートも
金賞・野菜ソムリエ
コミュニティさいたま

「我々は、埼玉野菜の近未来を、明るく輝かせるこ

自身も3月末に退職し起業準備中だ。生産者などの供給元と、飲食店などで助け合う「会員アシストネットワーク」のシステムを仕組み化し、今後この「お仕事チーム」を進化させ、埼玉を活性化していきたいとしている。

昨年金賞のコミュニティおおさかは「野菜LOVE」とテンポの良いプレゼンテーションで今年も会場を盛り上げた。会員らが野菜にまつわることをつづる「野菜ソムリエの野菜話(へじはな)」数珠つなぎブログは30回を超え、「野菜LOVE」応援プロジェクトとして会員向けイベントも開催。大阪産(もん)野菜、なにわの伝統野菜など、今後も魅力溢れるイベントを企画したいとしている。



(左から) コミュニティさいたまの渡辺氏と村田氏、日野菜ソムリエ協会の福井栄治理事長、TOKYOの飯田恵美子さんと山崎ゆりかさん、おおさかの植谷佐江子さんと角倉咲子さん

江戸東京野菜を継承
銀賞・野菜ソムリエ
コミュニティTOKYO

約30年で耕作地半減という急激な都市化の中で、東京の農業をつなぐという生産者がいる。コミュニティ

(藤田久美子)